

(様式2)

管理運営状況等の評価シート(令和5年度分)

施設所管課

健康福祉課

1 指定管理者施設概要

施設名	名称	上三川町こども発達支援センターおひさまの家
	所在地	上三川町大字上蒲生2108番地
指定管理者	名称	社会福祉法人こぶしの会
	代表者名	理事長 藤田 勝春
	住所	栃木県宇都宮市柳田町1401番地
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日	

2 利用実績等

(1) 利用実績

① 契約者数(※)

(単位:人)

区分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度	3月末契約者数	
															平均	町内	町外
児童発達支援	10	27	26	27	27	27	28	29	30	31	31	34	32	29.1	21.4	34	0
放課後等デイサービス	10	22	26	23	24	22	25	22	22	25	25	24	23	23.6	27.8	25	0
保育所等訪問支援		2	3	3	2	3	1	3	6	3	2	2	2	2.67	4.6	26	1
日中一時支援事業	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.08	1.4	1	0
合計	30	52	55	53	53	52	54	54	58	59	58	60	57	55.4	55.2	86	1

※ 契約者のうち、月に1回以上サービスを利用した者の数

② 利用件数(日数)

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年度合計
児童発達支援	120	130	134	120	126	113	126	112	117	131	121	123	1,473	1,360
放課後等デイサービス	160	166	181	159	138	163	151	142	160	139	145	149	1,853	2,074
保育所等訪問支援	2	3	3	2	3	1	3	6	3	2	2	2	32	55
日中一時支援事業	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	80
合計	285	299	318	281	267	277	280	260	280	272	268	274	3,361	3,569

③ 開館日数

(単位:日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年度計
令和5年度	21	22	23	22	21	22	23	21	22	21	21	21	260	260
備考	開館日数: 260日													

(2) サービス改善の状況

保護者研修会の内容について保護者の悩みや質問等事前にアンケートを実施し研修会へ参加することで、より細かな保護者の悩みが軽減できるように努めた。昨年度以前の事故報告の振り返りを行い、職員の危機管理の意識向上に努めたり、事例検討会議を開催し、障害特性の理解を深め、支援のスキル向上に努めた。児童発達支援は後半に向けて利用者数の増加に伴い、1グループの受け入れ人数を部屋の環境または個々の支援に対応できるように配慮しながら増やした。放課後等デイサービスでは、長期休み中にはメリハリのある活動を意識し、地域の公園や、近隣市町の公園に出かけたり、地域の陶芸教室の方々のご協力をいただき陶芸体験を開催したりと、地域での交流や児童の心身のリフレッシュを心がけた。保育所等訪問については、心理担当職員を配置し、より細かなアセスメントを行的確な支援が行えるように努めた。

3 管理運営状況

(※項目、評価内容は施設の状況等に応じ修正することとする)

項目	評価内容	指定管理者		施設所管課	
		自己評価	評価意見	評価	評価意見
(1) 基本運営の考え方	1 施設利用者の安全確保に関すること	B	気持ちの切り替えができなかった児童が壁を蹴り壁に穴が開いた。児童にけがはなかった。事故の振り返りを行い、検討を行った。	B	事故後に検討会議を開催する等の対応がなされているが、職員の不注意による事故も見受けられた。引き続き安全確保に十分留意していただきたい。
	2 施設の効率的・弾力的運営に関すること	A	定期的利用児がいない時間帯に希望者を募ってリトミック教室を開催した。同法人のふれあいの家ひまわりでの夏祭りの招待を受けて、交流する機会を持つことができた。	S	利用外の時間帯を利用し、要望がある方にリトミック教室を開催しサービスの向上に努めていた。
	3 就労及び生産活動の拡大に関すること				
	4 利用者工賃の向上に関すること				
	5 利用者の福祉の増進に関すること	A	保育所等訪問での学校からの要望を受け、放デイPTと連携し児童が学校でも取り組んでいける運動プログラムを作成し学校でも取り組んでもらえるようにした。	A	
(2) 施設・設備の維持管理	6 建物・設備等の保守点検に関すること	A	定期的に自主点検を行った。トイレ扉の緩みを発見し、指定業者により迅速に対応してもらえた。	A	
	7 備品の管理に関すること	A	備品台帳に基づき管理を行った。	A	
	8 清掃及び樹木剪定業務に関すること	A	職員による定期的な除草作業を行った。	A	
	9 警備業務に関すること	A	機械警備を継続して行っている。	A	
	10 廃棄物(ごみ)の減量等処理に関すること	A	業者による定期収集実施。分別を徹底している。	A	
	11 厨房・浴室等衛生管理業務に関すること	A	毎日の支援終了後に職員全員での消毒液を使用し施設の掃除を実施。	A	
	12 公共料金の支払いに関すること	A	延滞なく収めた。	A	

(3)
利用者サービス
向上の取組み

13	利用者の実績に関すること	A	毎日の支援終了後に担当職員が記載事項の確認を行っている。保護者には、テラスでサインをいただいている。	A	
14	利用しやすい受付案内の実施に関すること	A	おひさま通信に、翌月の活動内容をお知らせし見通しが持てるようにしている。	A	
15	適切な利用情報の提供(広報・PR)に関すること	B	毎月おひさま通信に活動の様子がわかるように写真を載せている。ホームページの更新は昨年度に比べ減ってしまった。	B	ホームページの更新頻度が減っているため改善に努めていただきたい。
16	サービス水準の確保に関すること	A	定期的な保護者面談のほかに、療育終了後の保護者への説明時に密に対話ができるように心がけ、保護者から受けた相談事項等について、毎日の反省会の場で職員間で共有し検討を行った。	A	
17	個人情報の保護に関すること	A	事務室の鍵付き書庫で管理。写真の掲載については保護者の意向を確認しながら行っている。	A	
18	利用者の意見を把握する仕組みの構築に関すること	A	年に1回保護者アンケートを実施し評価に基づく改善策を含めてホームページに公表。	A	
19	業務仕様書に掲載した事業の実施に関すること	A	実施できている。	A	
20	その他運営上必要な業務に関すること	A	保護者の就労状況により、施設利用の便宜を図るため、送迎ニーズに対応した。療育後の説明時間に都合がつかない保護者へは、個別に時間を設けて説明を行い、情報共有に務めた。	S	保護者の要望に応え、職員が送迎を行うなど、サービスの向上に努めた。

(4) 職員・管理体制	21	関係法令等の遵守に関すること	A	遵守している。	A	
	22	仕様書に規定された職員の配置に関すること	A	配置出来ている。	A	
	23	利用料金の徴収に関すること	B	基本的には口座振替の手続きをお願いしているため延滞はないが、退所したケースについては徴収が困難な場合もある。	B	退所者で徴収できていない者がいるとの事なので、対応を検討し引き続き徴収を続けていきたい。
	24	危機管理体制の構築に関すること	A	施設としての法定の避難・通報訓練に加え、各事業ごとに防災教育や避難訓練を行っている。洪水時を想定した防災教育と徒歩による避難を行った。	A	
	25	事業報告書等の提出に関すること	A	遅滞なく提出していた。	A	
	26	職員の研修に関すること	A	事業所内で事例検討、OJT、権利擁護研修の実施をしている。外部研修ではオンライン研修などを活用し、職員が参加しやすい環境を整えることができた。	A	
(5) 収支状況	27	指定管理料の執行状況に関すること	A	適切に執行している。	A	
	28	①適切な経理書類の作成	A	法人事務センターで作成。	A	
	29	②経理を担当する従事者の配置	A	法人事務センターに配置。	A	
	30	③伝票、通帳、印鑑等の適切な管理	A	法人事務センターで管理。	A	
	31	収入及び支出額(収支決算の状況)に関すること	A	法人事務センターで実施。	A	
	32	事業計画の目標達成度に関すること	A	利用率の向上及び、保護者のニーズに応えるため放デイでは長期休み中の利用日外の利用希望を事前に集約したり、早朝利用に対応したりした。	A	
	33	収入確保及び経費節減への取組に関すること	A	事務用品等は係が在庫管理した。会議資料等、データで確認する等し、用紙の節約や印刷枚数の削減を心掛けた。	A	

	指定管理者		施設所管課	
	総合判定	良好	総合判定	良好
総合評価	〔努力した点・具体的な成果〕		〔評価すべき点〕	
	<p>全体 新型コロナウイルス5類移行に伴い、事業所全体での研修会の機会や交流行事等の開催を増やした。上三川町文化協会陶芸サロンの方々から陶芸を教わったり、親子クッキング等を開催したり子どもの社会性の発達を交流事業から高められるようにした。</p> <p>児童発達支援 就学に向けての保護者研修会では、年中児の保護者に参加いただいた。研修会には先輩保護者様の実体験に基づくお話をいただけたことで、より身近で具体的なお話をいただき、保護者同士の意見交換の場となった。</p> <p>放課後等デイサービス 地域のお店への買い物体験や、町内を走るバスに乗るなど、社会生活スキルの習得に向けた活動を長期休みを利用し取り組むことができ、子どもたちがより充実した社会生活をイメージできるように務めた。</p> <p>保育所等訪問支援 週1日の開所日としたり、訪問支援員を兼務で配置したりと業務の効率化に務めた。また、心理師を配置し、対象児童のアセスメントをより専門的視点をもって取ることで、支援の質の向上に努めた。</p>		<p>部屋の空き時間を活用したリトミック教室や、利用者の送迎など、利用者サービスの向上に努めている。</p> <p>児童発達支援において、先輩保護者に依頼し実体験に基づいた話し合いや意見交換会を行い、利用者が必要としているニーズを把握し対応できるように努めている。</p>	
	〔改善すべき点〕		〔改善指導すべき点〕	
	<p>全体 小集団活動に加え、個々のニーズに即した個別支援も求められている。理学療法士、心理師の配置はできているが、作業療法士、言語聴覚士の配置体勢の整備を進めていく必要はあると感じる。収支の状況と照らし合わせながら、検討をしていきたい。</p> <p>児童発達支援 感染症拡大以降、保護者への説明をテラスにて行ってきたが、日々の子どもの療育の様子を参観してもらい、子どもの発達支援への細かな助言ができる機会を作っていけるようにしたい。</p> <p>放課後等デイサービス 保護者の就労の状況等を考慮すると送迎や早朝利用に幅広く対応していかなくてはいけないと感じる。職員体制を調整しながら、引き続きニーズに応えていける体制を整えていきたい。</p> <p>保育所等訪問支援 引き続き利用児の地域での集団生活適応のための支援に答えていけるように訪問支援のスキル向上に努めていきたい。</p>		<p>ホームページの更新頻度が令和4年度より減少していることから、PR活動をより積極的に努めていただきたい。</p>	

●評価基準(評価項目)

評価	評価基準
S	(優良)協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容であり、管理運営や利用者サービス等の向上において十分な成果が確認できる。
A	(良好)協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である
B	(課題含)協定書等の基準を遵守しているが、内容の一部に課題がある
C	(要改善)協定書等の基準が遵守されておらず、改善の必要な内容である

※協定書等とは、協定書、仕様書及び年度計画書等を指しま

●判定基準(総合評価)

判定	判定基準
優良	すべてがA以上であり、Sが4割以上である
良好	8割以上がA以上である
課題含	すべてB以上である
要改善	評価項目にCがふくまれている